

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		SMIDデイサービスSora				公表日	R8年3月18日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	65%	35%	人数調整、整理整頓、安全に配慮しながら自由に動けるスペースを確保している、散歩へでかける、	2事業所目の設立	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80%	20%	送迎時間がまばらで職員の出入が多く人員が不足する時間があるが、見守り支援ができるようにプログラムを組むようにしている。	日によってマンツーマン体制になれないときもありますが、配置は適切に行っております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	バリアフリー化や、おもちゃの表示など分かりやすく工夫している。危険がないよう配慮している。	使用した物品の片付けを徹底する。利用児の持ち物コーナーを一か所にまとめられるように配置替えをする。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	65%	35%	遊べるスペースがない時は、館内の別スペースを借りるようにしている。抗菌抗ウイルス作用のあるAROMAを芳香している。	汚れは小まめに拭く、消毒にこころがける、手洗いを小まめにする	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	80%	20%	応接コーナーや、仕切りの衝立、館内の休憩スペースを使用している		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	80%	20%	都度ミーティングやその場で話し合い意見交換を行い、申し送りノートなどで周知、業務改善に努めている。	一部の意見が反映され、スタッフ全員の意見ではないことがあるため定期的な会議が必要	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	評価表結果を、職員全員で把握し改善点を話し合っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	日々のミーティングなどで意見を出して情報共有した上で対応を検討。申し送りノートにて共有。何かあったらその都度意見や要望を話し合い対応している。	一部の意見が反映され、スタッフ全員の意見ではないことがあるため定期的な会議が必要	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	40%	60%	第三者による外部評価は行っていません		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	90%	10%	研修の機会を多く設け、勤務時間内に行っている。	伝達の機会を設ける	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		5領域に伴い適切に作成しHPにて公表を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	90%	10%		ニーズをもっと把握するために、保護者との交流を増やしていく	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	90%	10%	各職員の視点からの改善点や療育に対する意見を記入提出し、児童発達支援管理責任者がまとめて支援計画書に反映させている。	各職員同士が意見交換を行えるよう会議の機会を増やす	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	80%	20%	こどもの個々のファイル内に保管し、職員すべてが見れるようになっている。把握し支援を行っている。	新しい支援計画書を作成した際に、ミーティング時に共有認識を持ってもらうため再度話し合いを行う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		100%	ご利用児の特性上、標準化されたツールは適用していない。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	90%	10%	個別支援計画の項目に表記している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	80%	20%	保育士が中心となって他職員も一緒に行っている。ミーティングなどでその都度話し合っている	保育士だけではなく特性に沿った遊びや発達の段階の内容を、全ての職員が理解できるように会議を行う。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	80%	20%	発達状況に応じて変更している。季節に合わせたプログラムの立案、前年までの活動をふまえて外出先を拡大するなどしている。	個々の活動の目標を立てて考案し共有していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	80%	20%	個別活動を中心として、ボール遊びや楽器演奏などでは個別から自然な流れで集団になっている。大まかな五感活動などの計画はあるが、主に、子どものその日の様子や気持ちに沿った支援を行っている。	戦略的に集団活動を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	80%	20%	朝のミーティング時におおまかな支援内容を共有し、またその日の子どもたちの状態に合わせて臨機応変に対応できる支援をおこなっている。	活動の様子をしっかりと記録に残し共有していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10%	90%	送迎終了時刻が遅く終了後の打ち合わせは難しいため、必要時その場にいる職員で行い申し送りノートにて共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		支援の振り返りができるように支援した時に支援内容の他に気づいたことを記載するようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	90%	10%	児童の状態の共通認識を高めるために、学校へ職員が出向いたり、家族と学校看護師と共に受診同行を行なっている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		地域の保育園との併用をしている利用児さんには、定期的なモニタリングの他、共通のノートを使い日々の様子が家族、園、事業所で情報交換できるようにしている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	65%	35%	上越市こども発達支援センターと密に連携をとり、センターの研修にも参加させていただいています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもも活動する機会があるか。	90%	10%	今年度は地域の小学生との交流会を行うことができました。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		日々の連絡ノートとは別に、公式LINEを使用し密にやり取りを行っている。送迎時でも直接伝え合っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	35%	65%	保護者会により、保護者同士の支え合いの場を提供したり、保護者の方々のレスパイトケアを心がけることで、保護者の方の対応力を引き出す支援を行っている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	90%	10%			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	80%	20%	公式LINEや、送迎時など気軽に意見をお伝えいただけるよう配慮を行っている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	90%	10%	面談は、ご希望に合わせて行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	90%	10%	保護者会を開催し交流をはかっている。	きょうだい同士での交流も機会を設けていきたい。全職員で参加できるよう配慮していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	65%	35%	上越市福祉交流プラザ主催「ふえあいフェスタ」に実行委員として企画から参加させていただき、当事業所ご利用児も参加、地域の方々と交流を行っている。	今年度6月に上越市内、妙高市内の各児童発達支援事業所と連携し、地域との交流イベントを開催予定
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			マニュアルを策定し訓練を実施しているが、家族の皆様への周知が曖昧になっている、安心してご利用いただくために周知させていただきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	90%	10%		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		制作で使用する材料等についても、配慮している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	90%	10%	公式HPにて公表しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	65%	35%		個人の事として共有できていない部分もある、日常的にヒヤリハットを共有できるようなミーティングを行っていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		医療的ケアを行う中での、安全のための一時的拘束も保護者に確認し個別支援計画書に記載、行政へも連絡し行っています。		